

元気にな～れ

今月は ● ● ●

269

介護を受ける高齢者の気持ち！

社会福祉士 畑山 賢二です。



高齢化が進むにつれて大きな課題となっているのが「認知症高齢者」への対応です。実際に介護をするにあたって大切なことは、まず**介護を受ける本人を理解すること**です。症状の現れも個人差があり、介護者の負担やストレスから、おろそかに考えられがちな本人の気持ち…。今回は認知症高齢者の本人の気持ちを理解するために一つの事例をご紹介します。

ある老人病棟で一人の認知症の女性が亡くなり、彼女の持ち物を調べていた看護師が、遺品の中から彼女が書いたと思われる**手紙**を見つけました。彼女は重い認知症でした…



何が見えるの、看護婦さん、あなたには何が見えるの
あなたが私を見る時、こう思っているのでしょう
気むずかしいおばあさん、利口じゃないし、
日常生活もおぼつかなく目をうつろにさまよわせて
食べ物をぼろぼろこぼし、返事もしない
あなたが大声で「お願いだからやってみて」と言っても
あなたのしていることに気づかないようで、いつもいつも靴下や靴をなくしてばかりいる
おもしろいのかおもしろくないのか、あなたの言いなりになっている
長い一日を埋めるためにお風呂を使ったり食事をしたり
これがあなたが考えていること、あなたが見ていることではありませんか
でも目を開けてごらんない、看護婦さん、あなたは私を見てはいないのですよ (中略)
老人をまるで馬鹿のように見せるのは、自然の女神の悪い冗談
体はぼろぼろ、優美さも気力も失せ、かつて心があったところにはいまでは石ころがあるだけ
でもこの古ぼけた肉体の残骸にはまだ少女が住んでいて
何度も何度も私の使い古しの心をふくらます
私は喜びを思い出し、苦しみを思い出す
そして人生をもう一度愛して生き直す
年月はあまりにも短かすぎ、あまりにも速く過ぎてしまったと私は思うの
そして何物も永遠ではないという厳しい現実を受け入れるのです
だから目を開けてよ、看護婦さん……目を開けて見てください
気むずかしいおばあさんではなくて、「私」をもっとよくみて！
『私は三年間老人だった』
(パット・ムーア著) より



この手紙を読んで皆さんは何を感じましたか？